

白神ねぎ



○稲刈り前後の病害虫防除を必ず行いましょう!!!

1. 秋冬期に再発する病害（さび・べと病）の防除
特に今年は、さび病が多発したため、再発の可能性が非常に高い
① さび病対策
アフエットフロアブル、オンリーワンフロアブル、ラリー水和剤、ジオゼット水和剤 など
② べと病対策
リドミルゴールドMZ、フォリオゴールド、レーバフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤 など
③ さび・べと病同時対策
テーク水和剤、アミスター20フロアブル、メジャーフロアブル、ヨネボン水和剤 など
2. 黄色斑紋病斑（マダラ模様）対策 = 黒斑病・葉枯病の予防防除を!!
葉先枯れや、さび・べと病痕に黒斑病・葉枯病が多発しています。
特に、葉枯病は気温が低下すると黄色斑紋病斑になります。

発生時期が近づいてからの防除では殆ど効果が認められないため、定期的な防除が必要です。
また、収穫遅れが黄色斑紋病斑の発生を助長しますので、適期収穫を心がけましょう。
◎予防薬剤：ダコニール1000、テーク水和剤、パレード20フロアブル など

3. ネギアザミウマ対策
7～8月の高温・干ばつにより、ネギアザミウマの発生が多くなっています。
稲刈り前 … 茎葉散布 + 粒剤
稲刈り後 … 茎葉散布
発生密度が高まれば、1回の防除では抑えることができません。7～10日間隔で散布。
また、系統が異なる剤の混用散布や、速効性と遅効性薬剤の混用散布が効果的です。
・系統異なる剤散布
例) アグロスリン乳剤(合ピレ) + ハチハチ乳剤(その他)
・速効性+遅効性
例) ディアナSC(速効性) + マッチ乳剤(遅効性)
※マッチ乳剤はシロイチモジヨトウに登録有ります。

白神山うど



○8月下旬以降は台風対策を万全に

- ① 高温多湿状態で株が枯れ上がります。
速やかに地表排水が行われるよう、明渠を掘ったり、排水路の点検を行ってください。
この時期に湿害にあった圃場の株は、伏せ込み後、

腐りやすくなったり、揃いが悪くなるので排水対策はしっかり行って下さい。
② 株が倒伏した場合は、引き起こしを行わないでください。
株の引き起こしにより再度株が動くと、新芽がさらに動いてしまいますので、注意してください。
※8月下旬以降の湿害、強風被害は収量に大きく影響します。万全な対策をお願いします。

白神みょうが



○次年度に使用する稲わらの確保して下さい。

使用量はみょうがの面積が10a当たり20～30a分のわらが必要になります。

〈根茎腐敗病防除について〉
今年定植したほ場等で、収穫していないほ場では、収穫3日前までに使用できるランマンフロアブル500倍又は、オラルク顆粒水和剤2,000倍を3ℓ/㎡ (3,000ℓ/10a) 使用して下さい。

アスパラガス



茎枯病に対しては、ロブラール水和剤を2,000倍にして散布してください。
また斑点病に対しては、ラリー水和剤を4,000倍にして散布してください。

両方の発生が見られる場合はアフエットフロアブルを2,000倍にして散布してください。
合わせてネギアザミウマやヨトウムシが出てくるじきになりますので、アザミウマにはモスピランやスピノエースを散布してください。
ヨトウムシが多く発生しています。フェニックスやファームを散布してください。

白神きゃべつ



9月下旬以降から収穫が始まります。取り遅れしないように、収穫できるところから拾い取りをしましょう。
7玉10kg・9玉10kgは単価が安定せず安値で取引される場合がほとんどですので、高単価となる8玉10kgで収穫で

きるようお願いします。
食害があるもの、病斑があるものは箱詰めしないで下さい。また、外葉は必ず1枚つけて下さい。さらに、量目不足がないようにして下さい。市場よりクレームがあった場合は、別精算となりますので選別作業には注意して下さい。

刈り取りに向けた準備 適期の刈り取り判断について

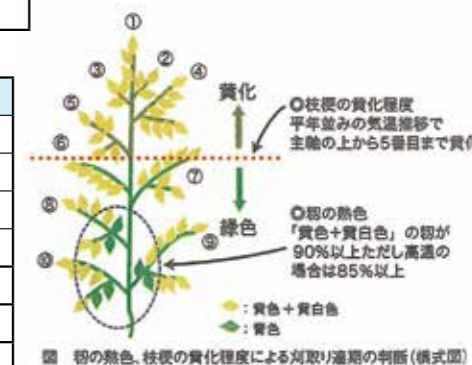
刈り取り時期は、出穂後日数や積算気温を参考に、枝梗や籾の黄化程度をよく観察し総合的に判断しましょう。

■判断の目安

①出穂後の日数	早生種（あきたこまち等）：出穂後45日頃 中晩生種（めんこいな・ひとめぼれ等）：出穂後50日頃
②出穂後の積算気温	早生種：950～1050℃（1100℃を超えると胴割粒増加） 中晩生種：1050～1150℃（1200℃を超えると胴割粒増加）
③出穂後の積算日照時間（特に日照不足年）	収量水準540kg/10a（全粒数28～30千粒/㎡）：190～255時間 収量水準570kg/10a（全粒数30～32千粒/㎡）：200～265時間 収量水準600kg/10a（全粒数32～34千粒/㎡）：215～280時間
④枝梗の黄化程度	主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃
⑤籾の黄化程度	最終的には籾の黄化程度90%で決定

○出穂期別積算気温到達予想日（9月5日現在）

出穂期	950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃	1,150℃
7月25日	8月27日	8月29日	8月30日	9月1日	9月4日
7月30日	9月1日	9月3日	9月5日	9月7日	9月10日
7月31日	9月2日	9月4日	9月6日	9月9日	9月11日
8月1日	9月3日	9月5日	9月8日	9月10日	9月12日
8月3日	9月6日	9月8日	9月10日	9月12日	9月15日
8月6日	9月9日	9月12日	9月14日	9月17日	9月19日
8月10日	9月15日	9月18日	9月20日	9月23日	9月26日



※アメダス能代データ。9月6日以降は、平年値を使用

■収穫・乾燥・調製作業の留意点

- 収穫時の籾水分は25%以下が望ましいため、作業時間帯は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に設定しましょう。
- 高水分の籾や活青米の多い籾等は、籾含水率20～18%まで低下した時点で乾燥機を休止し、籾全体のテンパリングを行ってから仕上げ乾燥する二段乾燥を実施しましょう。
- 米選機の網目は1.9mmを基準とし、整粒歩合80%以上の高品質米をめざしましょう。



秋田県種苗交換会の出品物を募集します!

受付日時：令和5年10月29日(日) 9:00～15:00
受付場所：能代営農センター・ニツ井営農センター・藤里営農センター

各品目の規格については、営農指導員までお問い合わせ下さい。

皆様からの、たくさんのご出品をお待ちしております!